こそだておうえんマガジン

アクセスマップ

「くじらしま」は、昭島市内の以下の4園で開催している地域 の子育て支援事業です。

たまほいくえん

〒 196-0033 東町 5-1-40 **4** 042-544-1151





イコロ昭和の森

〒 196-0002 拝島町 4041-1







なかがみほいくえん

〒 196-0025 朝日町 5-4-17 **3** 042-545-0255





ミナパもくせいのもり

〒 196-0035 もくせいの杜 1-2-25 **5** 042-519-4378







イベントパーク(行事体験)

園の行事に参加、体験いただ けます

デイリーパーク (体験保育)

親子で日常の保育生活を体 験(お子さまの給食有。無料)

子育てワークショップ

ミュージックダンス、わらべうた、 食育、子育で広場、子育でサークル

たまごパーク

妊婦さんや 0歳児が対象の 遊び場。身体測定も実施

ひよこパーク

0から2歳児のお子さまを 対象に園庭解放を実施

育児相談 (随時受付)

各園にて受付けています。 時間はご相談ください

園内見学(随時受付)

各園にて受付けています。 時間はご相談ください

一時預かり保育(有料)

地域のお子さま対象です。詳 細は各園へお問合せください

「くじらしま」ではさまざまな支援活動をしています。地域で子育てを行っている方は、 どなたでもご参加いただけます。 詳細は、右の QR コードより、都度ご確認ください。



おうちでできるシリーズ インタビュー 西川久美子先生

ほいくの4コマ「かっぱ!?」 「中神〜多摩川周辺お散歩マップ」 連載・もっと知りたい「氷山ルリの大航海」 ……07 2023-24 WINTER

.....02

.....04

.....05

.....06

子育て支援 コンテンツ

くじらしまだより







「準備する物〕

○すり鉢

○すりこぎ

○スプーン

○ごま

○ごまを入れる容器

○すったごまをいれる容器

おうちでおしごと

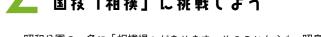
『ごますり』

 $1 \cdot 2 \cdot 3$

冬をたのしむ 😌 体の中からポカポカに

はっけよい、のこった!

国技「相撲」に挑戦しよう



昭和公園の一角に「相撲場」があります。そのことからも、昭島に「相 撲」が根付いていた事がうかがえます。

多摩育児会では、立川わんぱく相撲大会に希望者が参加し、横綱に輝 いた子どもたちもいます。保育園でも相撲マットを準備し、相撲大会 をしています。又、多摩保育園では季節場所を開催しています。日本 の国技である相撲は、「身体能力が高まる」と言われています。ぜひ、 ご家庭でもお子さまと一緒に相撲を楽しんでみて下さい。



1カプーンに1杯ごまをすくい、すり鉢に入れる

②すりこぎでごまの粒がなくなるまですっていく

③すったごまを入れる容器にうつす

ぷりと使う**一**連の流れがあります。

「やりかた/手順など〕

[ポイント]

モンテッソーリの特徴として、教具に「本物」を使うという 点があります。この「ごますり」でも、実際に料理で使用す る陶器の「すり鉢」と木製の「すりこぎ」、木製の蓋つきのガ ラス製の「ごまを入れる容器」、木製のスプーンを使用してい ます。プラスチックとは違って、ガラスや陶器、木製のカテ ラリーはていねいに使わないと、割れたり破損しやすいとい うことも、子どもたちに伝えます。

この「ごますり」の目的は、手の平や手首、うでを使い、握る・ 回すの動作を獲得することにあります。プチプチとゴマがつぶ れる感覚がすりこぎから伝わってくる触覚への刺激や、ゴマが

固形から粉末になる工程を見る視覚への刺激、つぶれることで

漂ってくるゴマの香りを感じる嗅覚への刺激など、五感をたっ

蓋つきの容器を使うと、開け閉めの動作によって、手首や指 先に柔軟な動きが求められます。

子どもは、自分でするごとに香りが高まっていくのを感じ、 さらに自分がすったごまを食べることで食事の満足感もアッ プします。ぜひ、ご家庭でもたのしく挑戦してみてくださいね。



冬は各家庭でお餅を食べる機会が増える時期。 お餅は、3歳以上から食べられると言われていま すが個人差があります。歯が生えそろう、きちん と噛むことが出来る、一度に口に入れないなどの 確認が必要です。また、意外と重要なのが「食べ る前の状態」。子どもは眠かったり疲れていたり すると、食事に対する注意が散漫になりやすく、 しっかり咀嚼が行われない可能性があるので、お 餅を食べる時には気をつけるようにしましょう。

<幼児にお餅をあげる時の注意点>

お餅を食べさせる時は以下の5つの点に気を つけて、子どもの正面から「噛む→飲み込む」 が出来ているかを確認しましょう。

- 小さく切って食べやすい大きさにする
- ② 食べる前にお茶や汁物で喉を潤す
- ❸ お汁粉など汁気があるメニューにする
- ❷ 眠くないか?食べる前の状態を見る
- **⑤** もち米にアレルギーがないかを確認する

【餅の春巻き】

春巻きの皮をかぶとの形にしてお餅を包むと、 丸のみの心配がなく子どももよろこびます。

おいしくあんぜんに

●材料(作りやすい量)

餅…1~2切れ(スライスして三角に切る) トロけるスライスチーズ…1枚(三角に4等分) 春巻きの皮…4枚

ハム…1枚(三角に4等分) ケチャップ…1枚につき小さじ1

油…大さじ3~4

●作り方

- 1)三角に薄く切ったお餅を、ハム・チーズと 共にケチャップを塗った春巻きの皮に包む。
- ②油をひいたフライパンを熱し、
- ①を折り目が多い方を下に して中弱火で焼く。
- ③キツネ色に焼き目がつ いたら裏返して反対側も 焼く。

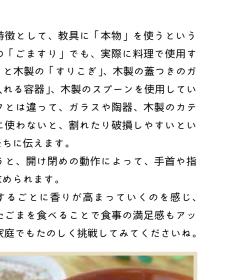






※こぼれたごまを 集める小さなちり







西川久美子 先生



中神駅から徒歩約10分の閑静な住宅街にある 「わかくさ保育園」。昭和31年の開業から今日ま で、子どもたちのもうひとつの家であり、家族 として、家でくつろぐように生活を送れる場所 であり続けることを大切にした保育園です。実 はこの「わかくさ保育園」の初代園長西川昌夫 先生(左下)は、多摩保育園の3代目理事長で もあり、多摩育児会とは、古くからとても縁の ある園です。今回は、現在の園長である西川久 美子先生(上)にお話をお聞きしました。

Q:「わかくさ保育園」は昭和31年開園で西川 久美子先生は5代目の園長だそうですが、開園 の経緯を教えてください。

西川先生:昭和 31 年開園の「わかくさ保育園」は、 「西川製糸」に勤める従業員の声から始まった企 業内保育所でした。と、いうのも、多摩地域は



汀戸時代から養蚕と絹 織物のさかんな地域で したが、明治26年に昭 島で「西川製糸」を創業 したのが、私の高祖父で 実業家だった西川伊左

衛門(写真右)でした。 「西川製糸製品」の品質 はフィラデルフィアで 開催された博覧会で表 彰されるほどだったと 聞いています。伊左衛門

が大正11年に建てた別邸は、現在、江戸東京た てもの園の高橋是清邸の横に移築されています。 「西川製糸」は昭和初期に最盛期を迎え、戦後は 生糸からナイロン製品の織物に移行し、社名も 西川化学工業となり、事業は徐々に縮小して、 現在は織物業は行なっておりません。

Q:「わかくさ保育園」が、縦割、自主的、個 別保育を始められたのは、いつからですか? 西川先生:父の昌宏が園長になってからです。

父は学生時代から青少年育成活動に熱心でした。 初めは西川化学工業との兼任園長でしたが、視 力が徐々に無くなってしまう難病「網膜色素変 性症」にかかり、昭和56年からは園長職に専 念するようになりました。現在のモンテッソー リ教育法やたて割保育、自主的保育や個別支援 を取り入れたのはその頃からです。特にモンテッ ソーリや個別支援は集団保育が主流だった昭和 40~50年当時は、多摩地域では先駆的な保育 方法でした。

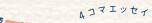
Q:「わかくさ保育園」では、具体的にどのよ うな保育を行なっていらっしゃるのですか?

西川先生:当園では、様々な理由で日常生活に 困難、集団活動が苦手、障害があるなどのお子 さんも、みんながが安心して過ごせるようにそ の子に応じた接し方をしています。異年齢で過 ごすたて割り保育も、個別支援が必要なお子さ

んたちにとっての過ごしやすさ、保育のしやす さにつながっています。父は、一斉保育ではな く、たて割りでそれぞれに好きなことに集中し ていれば、結果、保育がスムーズにいくことに 気がついたんでしょうね。平成15年に園舎を新 しくした時も、年齢差をこえて子ども達が遊び、 牛き牛きと成長できる空間になるようにと、「行 き止まりのない回遊性のある遊空間」が特徴の 建築士、仙田満先生に依頼しました。園庭にも 子どもがのびのびと主体的に遊べるような遊具 を取り入れています。

Q:最後に読者へのメッセージをお願いします。 西川先生:昭島はベッドタウンで団地も多く、 マンモス園が多いですよね。当園にはパート勤 めの保護者も多いですが、駅近くにある園は都 内に働いているかたが多いなど、地域によって 特徴もあります。少子化社会に向け"こども家 庭庁"が創設され、未就園児の成育環境を支え ることや保護者の孤立防止のための「こども誰 でも通園制度」の導入も検討されています。こ れからはより多様な働き方や子育てが当たり前 になって、園との関わり方も変わってくるかも しれません。私たちは、お子さんの数が少なく なることで、逆に今よりきめ細やかな対応がで





日々是保育 ****

かっぱ!?

園でのできごとを多摩育児会の保育十 が4コマまんがでお伝えします!





















「中神熊野神社」建立は 1360年。境内には、樹齢 400年と言われるいちょうの 木があり、とても迫力があ ります。東京都指定の無 形民俗文化財「中神の獅 子舞」の伝承地。

[みどりっ子 昭島店(昭 島地区農産物直売所)]

旬の地場産野菜・果物のほか地場 産卵もある JA の直売所。朝どれ 野菜を求め、お店の外にお客さん が並ぶことも。季節限定で市内

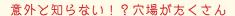
> で栽培されたシクラメンや パンジーも販売。玉川町 5-16-17 (OPEN9:00-15:00 / 定休日:土・日・祝)

「福厳寺、中神防空壕跡」 中神坂、三方を石垣に囲まれた特徴的な交差点の一角にある福厳寺。この高台からは多摩川方面が見渡せる見晴らしのよい絶景スポット。また福厳寺の南面の石垣には、防空壕の入口が残されています。戦争中の昭島にも

想像をめぐらせてみてくだ

2025年9月まで工事中)

昭島市中神町 1-3-3(付近)



中神~多摩川周辺お散歩マップ

今回は特集でインタビューしたわかくさ保育 園西川園長より、中神駅から多摩川までのお 散歩にぴったりのおすすめスポットをお聞き しました。寒い日も、家族で近所をお散歩す れば心も体もあたたかくなりそうですよ。







[宮沢広場]「多摩川ふれあい水族館」が入っている多摩川上流水再生センターの屋上にあります。敷地も広く、小さな子どもでも挑戦できるアスレチックがいくつもある穴場。ゆっくりたっぷり遊べますよ。近隣に無料の駐車場もあり。宮沢町3丁目





[多摩川ふれあい水族館]多摩川上流水再生センターの中にあるミニ水族館。4つの水槽で多摩川に生息する魚などを展示。なんと、この水槽の水は、下水の処理水。水をきれいにして川にもどすことの大切さも学べます。宮沢町 3-15-1 (OPEN9:00-16:00 / 定休日:土・日・祝、年末年始/入館料:無料





「しょうこおねえさん」の親子コンサートを開催!親子で音楽表現の素晴らしさを感じてください。

たまいくじかい創立 77 周年記念「膏楽まつり」

2024年2月12日(月‧祝) 13:30 開演予定 入場料: 無料

出演 | はいだしょうこ(NHK「おかあさんといっしょ」第19代うたのおねえさん)、 恵畑ゆう(NHK「いないいないばぁ!あつまれ!ワンワンわんだーらんど」のおにいさん)、



きよこ (NHK「おかあさんといっしょ」デ・ポン!のおねえさん) 会場 | FOSTER ホール(東京都昭島市つつじが丘 3-7-7) 詳細は、左の QR コードから、もしくはホームページ https://www. tns.or.jp/ をご覧ください。



たまごパーク

多摩育児会の子育で支援プログラムの 一つをご紹介します。

歩けるようになる前の赤ちゃん親子が対象の 集いの場です。子育て相談や赤ちゃんの身体 測定も行えます。また、妊婦さんやプレ妊婦



さんのための育児学習・保育体 験もご用意しております。詳し い日程はホームページ、または 各園までお問い合わせください。







社会福祉法人多摩育児会 創立77周年記念式典・祝賀会

2022 年竣工の多摩保育園園舎改築事業、2023 年竣工のミナパもくせいのもり開設事業を経て、創立 77 周年の節目を迎え、関係する皆様に敬意と感謝の意を表したく、2023 年 11月11日に、フォレスト・イン昭和館シルバンホールで記念式典・祝賀会を開催しました。

昭島市長をはじめ、行政、議員、保育関係や取引 先関係の皆様総勢約 250 名にご出席いただき 大変感謝しております。温かい祝辞、感謝状 の贈呈、プロの JAZZ ライブ、職員のよさこい など法人の歴史に残る一日となりました。"子 どもたちと平和のため"に次は創立 100 周年 を目指して職員一丸となり進んで参ります。



[連載] もっと知りたい

「氷山ルリの大航海」

一第4話-

絵本の中の生き物の作品作り

2019 年、中神保育園では子どもたちが「氷山ルリの大航海」の絵本に出てくる海の生き物に興味を持ち、色々な作品を作りました。作中の生き物を図鑑などで調べ、床一面に大きな紙を貼りみんなで絵を描きました。一人の子が「オサガメはどのくらいの大きさなんだろう?」と疑問を抱くと、実際にみんなで作ってみようという話になりました。段ボールや新聞紙で土ちを作り、色を塗っていき、遂に実物大のオサガメが完成しました。子どもたちは隣に寝転んで背を比べたり、上に乗ったりして、とても楽しそうに喜びを分かち合っていました。

